

各教科等における 「令和7年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。
- 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。
- よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
- 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。
- 生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
- 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実

- ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら集団として合意形成を図る」「集団思考を生かした一人一人の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へまとめていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。
- ◇ICTを活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。

③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実

- ◇合意形成したことを基に、全員で役割を分担して協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現や達成を目指すよう支援する。
- ◇生徒が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連を図った指導をする。